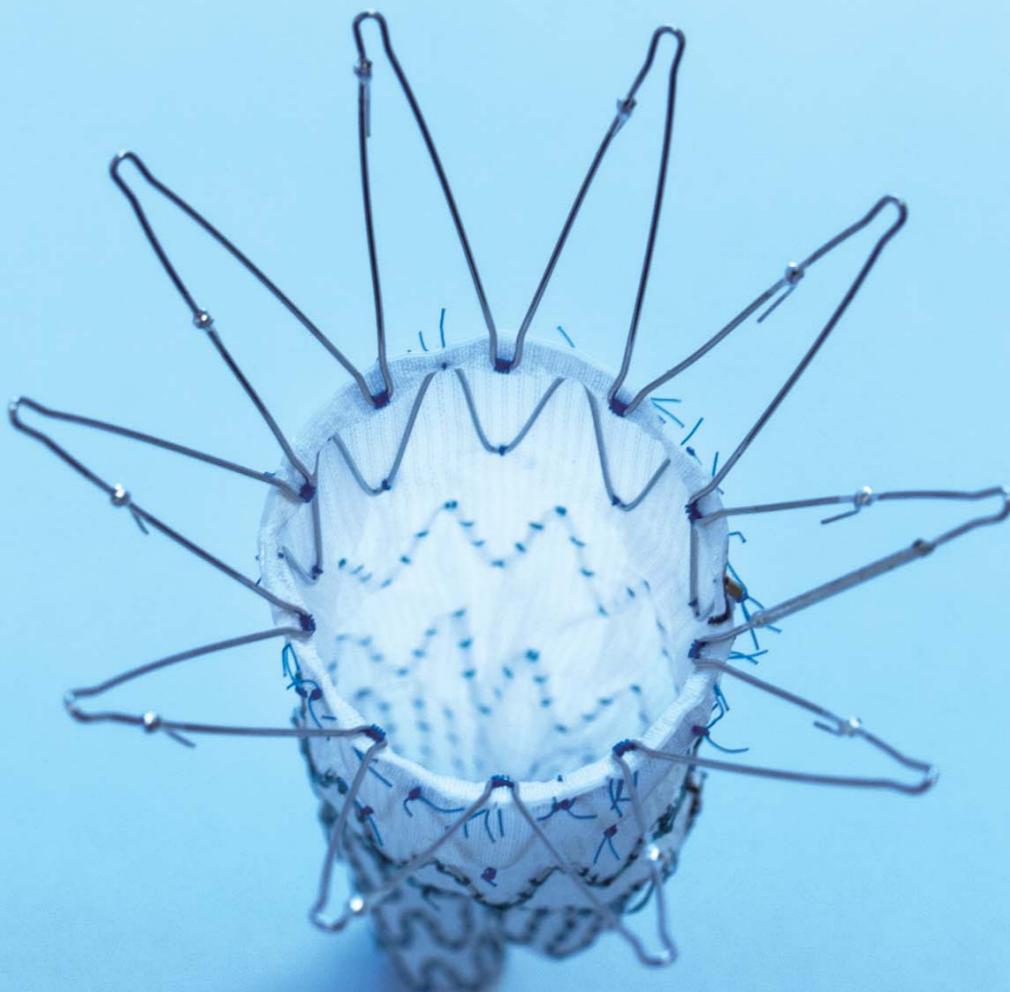


HANDS

Kokura Memorial Hospital

69

2017



岡崎 仁からの
メッセージ動画配信中!!

いつもの暮らしに、いつものあなた
小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) 小倉記念病院

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室)夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】ステントグラフ

ステントグラフト治療は比較的新しい技術であり、日本でステントグラフトの使用が公認されてからの期間も短いため、この治療を安全確実に実施できる病院はいまだに限られています。当院は実施施設基準を満たすだけでなく、胸部大動脈瘤ステントグラフト指導医2名・腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医4名(重複あり)が在籍しています。

Vascular Surgery

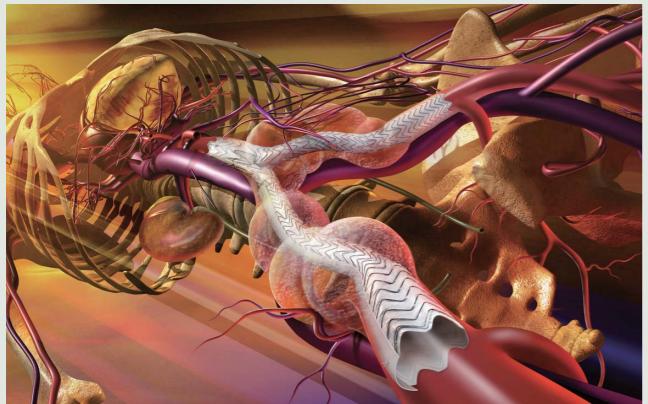
血管外科【心臓血管病センター】

患者さんにとって
最適な血管治療を実施



Stent Graft

ステントグラフトは、動脈瘤に対する最新の低侵襲治療



ステントグラフト内挿術

腹部を切開する必要がないため患者さんにかかる負担は極めて少くなり、早期退院、早期社会復帰が可能となります。所要時間も短いので、身体にかかる負担が少ないのが特徴です。金属バネの力と血圧により広がって血管内壁に張り付けられるので、外科手術のように直接縫いつけてなくても自然に固定されます。大動脈瘤は切除されず残りますが、瘤はステントグラフトにより蓋をされることで血流が無くなり、次第に小さくなる傾向がみられます。



症例数(2008年から通算)

腹部大動脈瘤
ステントグラフト

448 例

腹部大動脈瘤
開腹人工血管置換

329 例



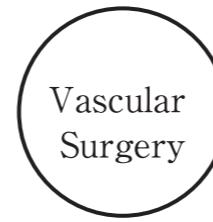
腹部大動脈瘤の症状

腹部の拍動性の腫れとして瘤を手で触れることもありますが、症状がないことが多い、検査で偶然発見されることもなくありません。瘤が大きくなって周りの臓器を圧迫するようになると、腰痛や腹痛、圧迫感などの症状があらわれてきます。瘤が破裂してしまった場合、痛みや出血性のショックが引き起こされ、高い確率で生命が奪われてしまいます。そのため、瘤が破裂する前に外科的な治療を行う必要があります。



人工血管置換術

従来から施行されている手術法として、大動脈瘤の部分を切除して人工血管と置き換える「人工血管置換術」があります。人工血管置換術は長い歴史を有し、手術後の経過や起りうる合併症等の予想がつきやすいのが特徴です。いったん治療を受けた場合には瘤はなくなり、追加の治療が必要になることはほとんど無いことが判っています。置換部位によっては、まだまだ体の負担が小さな手術ではありますが、様々な改良が加えられて、近年は安全性が高い治療になってきたと言えます。



血管外科

【心臓血管病センター】

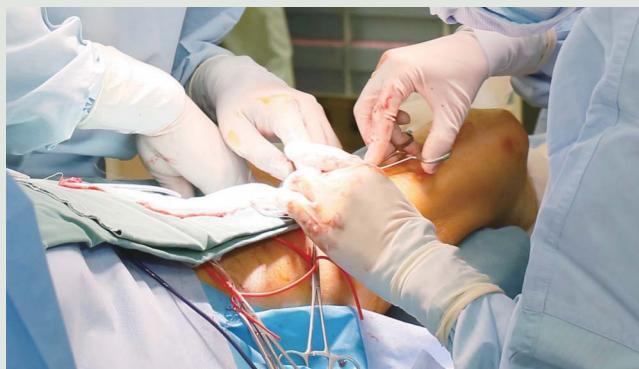


Stent Graft

腹部大動脈瘤
ステントグラフト内挿術

Lower Extremity Bypass

バイパス術は、末梢動脈疾患の最後の砦



バイパス術

現在は循環器内科による血管内治療が増加しつつありますが、大切なことは個々の症例に応じた選択肢を用意できるかどうかです。近年では虚血性潰瘍や壊死を伴う重症下肢虚血の増加、また血管内治療困難例など循環器内科のみで診療を完結することは不可能であり、また血管外科だけでも不十分です。私たちは1つのチームとして循環器内科と密接に協議し、バイパス術が必要な場合にはハイレベルの外科的血行再建術を提供できるように万全の体制を整えています。



症例数(2008年から通算)

下肢虚血下腿・
足部バイパス

370 例

下肢虚血
その他血行再建

526 例



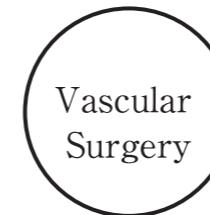
末梢動脈疾患とは

足の動脈が狭くなったり詰まつたりして血液の流れが悪くなり、病状が進行すると痛みなく歩行できる距離が短くなり、安静時にも痛みが持続し、さらには足の趾(ゆび)の傷が治りにくくなったり壊死に至ることもあります。原因はさまざまですが、多くは動脈硬化によって、腹部大動脈から下肢動脈が詰まります。同じく動脈硬化を原因とする狭心症や心筋梗塞、脳梗塞などを合併することが多いため、末梢動脈疾患の患者さんでは全身の動脈硬化症についても注意が必要となります。



循環器内科 首我芳光から見た「血管外科」

経験を積み重ねるたびに末梢動脈疾患、特に重症虚血肢に取り組むには必ず血管外科が必要であることを痛感します。内科の感覚のみで疾患を評価しようとすると、考え方が偏りがちです。朝の回診時に血管外科の先生から頂くちょっとしたアドバイスや迅速に行われるデブリードマンによって病態が一気に改善することも経験しています。血管外科の先生からすれば、いささか迷惑な話ですが、血管外科がいるからこそ、我々循環器内科は安心してカテーテル治療を行うことができます。これからも、いい緊張感を維持しながら「互いの治療や考え方を尊重しあう」未来志向の関係を築いていきたいと思っています。



Vascular
Surgery

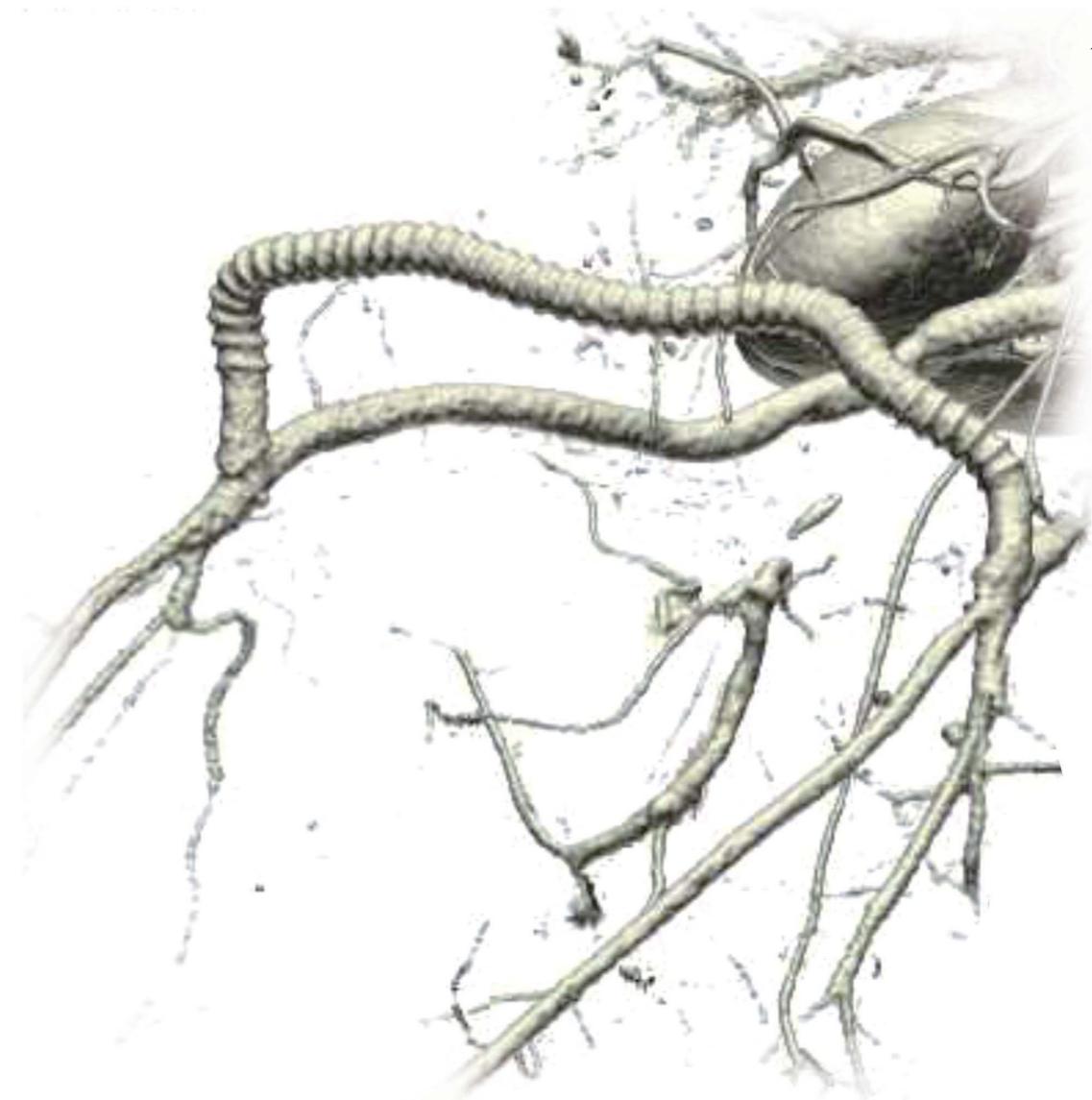
血管外科

【心臓血管病センター】

Lower Extremity Bypass

末梢動脈疾患

バイパス術



ELVeS LASER 1470

2ヶ所のリングからレーザー光が照射される最新レーザー機器



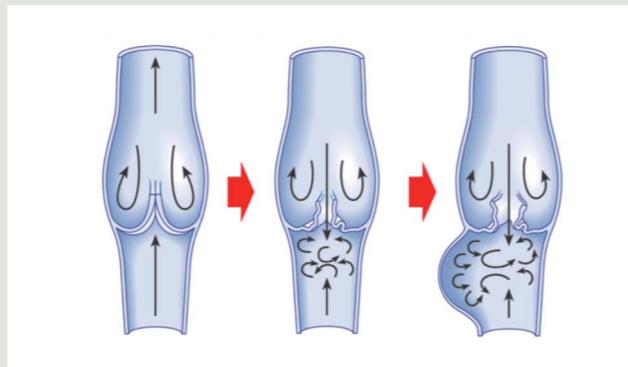
ELVeSレーザー1470

当院が使用しているELVeSレーザー1470は、「手術部位の創がほとんど残らない」「2ヶ所のリング(レーザー照射部)から全周的にレーザー光が照射される」「局所麻酔、TLA麻酔施行可能なため、治療後すぐに歩ける」ことが大きな特徴となっています。ELVeSレーザー1470を使用するには、「下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準」による実施施設及び実施医認定の取得が必要です。当院には2名の実施医が在籍しています。



症例数(2008年から通算)

静脈瘤 レーザー治療	静脈瘤 ストリッピング
194 例	997 例



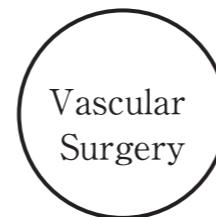
下肢静脈瘤とは

下肢静脈瘤は足の血管の病気です。下肢とは足のことで、静脈瘤は血管(静脈)が文字どおりコブ(瘤)のようにふくらんだ状態のことをいいます。下肢静脈には筋肉の中を走る「深部静脈」と皮膚と筋肉の間を走る「表在静脈」があり、静脈瘤ができるのは皮膚に近い伏在静脈と呼ばれる表在静脈です。下肢の静脈には血液が重力によって足先へ逆流しないように弁がついていますが、それらの弁が壊れると血液の逆流が起こり、うっ血が生じて血管の拡張や蛇行することによりコブができます。これが下肢静脈瘤です。



市民公開講座

9月に開催しました市民公開講座「下肢静脈瘤のお話」では約800名の応募があり、会場には大勢の方々にご来場いただき大盛況のうちに終えることができました。遠方から参加される方々も多く、生活者の下肢静脈瘤への関心の高さが伺えました。講演は楽しく分かりやすく、最新のレーザー機器も実際にご紹介し、最後の質問コーナーでも意見が続出でした。来場された方々からは「ためになった」「不安が解消された」などのお声をいただきスタッフ一同励みとなりました。



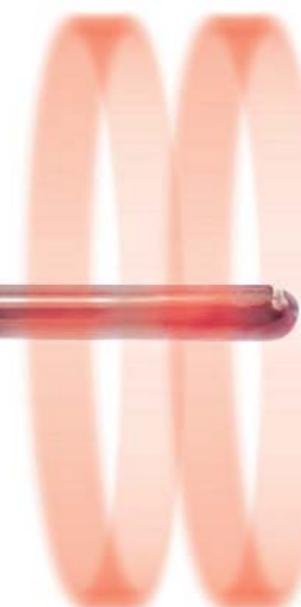
血管外科

【心臓血管病センター】

ELVeS LASER 1470

下肢静脈瘤

ELVeSレーザー1470





Daisuke Matsuda

血管外科 松田 大介

[Profile]

- ・日本外科学会
- ・日本心臓血管外科学会
- ・日本血管外科学会
- ・日本臨床外科学会

血管外科は、腹部大動脈瘤などの動脈瘤疾患に加え、閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞、下肢静脈瘤などの足に関わる疾患を診ることが多い診療科です。患者さんそれぞれの足の悩みに共に向かい合い、一人でも多くの方が元気に歩いて帰れるように日々の診療に取り組んでいます。歩くと足が痛い、足の傷が治りにくい、といった、足に悩みを抱えた患者さんがいらっしゃいましたら、我々血管外科にご相談下さい。



Kiyoshi Tanaka

血管外科 副部長 田中 潔

[Profile]

- ・日本外科学会 認定医・専門医
- ・3学会構成心臓血管外科専門医認定機構 専門医
- ・日本脈管学会認定 脈管専門医
- ・日本血管外科学会認定 血管内治療医
- ・日本静脈学会
- ・腹部大動脈ステントグラフト 指導医
- ・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による指導医

腹部より足部にかけての血管を治療します。大動脈瘤や閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤等の治療を専門としています。腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術や下肢の血行再建術はもとより、下肢静脈瘤に対して積極的にレーザー焼灼術を導入しております。「歩くと足が痛む」、「足に出来た傷が治らない」、「夕方になると足が重だるくなる」など、でお困りの患者さんがいましたら、いつでもご紹介ください。



Jin Okazaki

血管外科 部長 岡崎 仁

[Profile]

- ・日本外科学会 認定医・専門医・指導医
- ・3学会構成心臓血管外科専門医認定機構 専門医 指導医 評議員
- ・日本脈管学会認定 脈管専門医
- ・腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医
- ・日本血管外科学会 評議員
- ・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医

腹部大動脈瘤・末梢動脈瘤・四肢の末梢動脈閉塞性疾患(PAD)・下肢静脈瘤の治療を専門としています。特に腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術と下肢の動脈血行再建バイパス術は多くの経験があり得意分野です。病気の進行度や並存症、ライフスタイルや家庭環境など、個々の患者さんの背景に応じた最適な治療法を常に考えています。

Vascular Surgery
Professional血管外科の
プロフェッショナル

血管外科では、腹部および四肢における動脈疾患および静脈疾患に対する診療を行っています。特に下肢の閉塞性動脈硬化症に対する治療では日本有数の血行再建(下肢動脈バイパス術)症例数があり経験豊富な医師が診療に当たっています。近年血管内治療(カテーテル治療)が急速に進歩しており、これを主に行っている循環器内科と密に連携を図り、患者さんにとって最適な治療方針を決定しています。腹部大動脈瘤の治療においてはステントグラフト内挿術(腹部を切らずに治療する方法)をいち早く導入し、年間約100例の腹部大動脈瘤手術のうち60%以上がステントグラフト治療になっています。静脈疾患でも下肢静脈瘤に対するレーザー治療など最新の治療を導入していますが従来のストリッピング手術も行っており、個々の患者さんの状態に合わせた最適な治療法を選択しています。